

新庄市議会 行政視察報告書

会派又は議員名 市民・公明クラブ

報告者 山科 正仁

【全体的事項】

1. 視察日程 平成29年 7月25日(火)～27日(木)
2. 調査事項(視察先)
 - (1) インバウンド事業の戦略(東京都渋谷区渋谷3-10-5 TOHTAMビル2F
インフィニティ・コミュニケーションズ(株))
 - (2) 通常ごみ減量化および資源ごみ循環対策への取組(東京都江東区潮見1-29-7
NPO法人 地球船クラブ エコミラ江東)
 - (3) 当市連携事業店舗のコンセプト状況(東京都豊島区西巣鴨2-7-9
座・ガモール)
 - (4) 小中学校における国際理解推進業務関連(千葉県松戸市根本387番地の5
松戸市役所 教育委員会)
3. 視察参加議員(4名)

・小野 周一 ・佐藤 卓也 ・高橋 富美子 ・山科 正仁

【具体的事項】

調査事項(1)

- (1) インバウンド事業の戦略
(東京都渋谷区渋谷3-10-5 TOHTAMビル2F
インフィニティ・コミュニケーションズ(株))

(視察事項)

- ・自治体でのマーケティング効率的な手法導入
- ・東北版「導遊図シリーズ」の刊行検討
- ・外国人を誘導出来る地域環境づくりの手法
- ・新庄市インバウンドアドバイザーからみた当市の課題指摘

■視察日時 平成29年 7月25日(火)
□午前・午後 14時40分 ～ 16時50分

■所 感

- ・マーケティングの有効な仕掛け創りとは、概ねはそこに充当させる人材にかかっており、手法を熟知した担当者育成の重要性を痛感した。
- ・東北版の導遊図（インバウンド誘導目的の地域案内パンフレット）は現在、山形出身の女優を表紙に刊行されており、インバウンドに特化した内容としては他に例を見ない物である。類似する案内パンフレット等を当市において作成する予定であれば大いに参考とすべきである。（現物別添付）
- ・インバウンドに対しは「本気の度合い」が重要なキーワードであり、担当者の人材育成を筆頭にして、お客様の目的に合致した地域環境を創る必要性を感じた。特にネット環境の完全整備、多言語対応、夜間におけるショップや案内所のオープン化、通貨換金の容易化などは最低限整える必要がある。
- ・まだまだ、インバウンド発展途上の当市において本気度が感じられないし、今後の新幹線延伸を考慮すれば、単なる通過点地域化してしまう恐れがあるとの指摘から、本気の予算化と能力の高いインバウンドマネージャーの育成が急務であると認識した。
- ・まとめとして、御対応いただいた斉藤氏であるが当市の出身である事、これは、非常にうれしくそして頼もしいことであり、我々は強烈な刺激を受け有効な視察となったと申し添える。

調査事項（２）

通常ごみ減量化および資源ごみ循環対策への取組

（東京都江東区潮見 1-29-7 NPO法人 地球船クラブ エコミラ江東）

江東区 人口：510,839人 面積：40.16km²

（視察事項）

- ・運営母体と株ヨコタ東北との業務連携の仕組み
- ・リサイクル過程での他社との差別化を図っている点
- ・職員構成と特記すべき待遇面
- ・江東区（行政側）との設立当初からの経緯と現状
- ・運営母体の運営コンセプト
- ・新庄方式に対する所感

■視察日時 平成29年 7月26日（水）

午前・午後 9時25分 ～ 11時50分

■所 感

- ・当該法人の設立運営コンセプトの基盤となっているのが、ヨコタ東北であり現在も回収トレイ等の納入や、ペレットの販売先などで連携を図っており、お互い

WIN WINの関係であるとのこと。企業間の理想的なシステムであると感じた。あわせて、パレット化マシンを貸与から無償譲渡へと進む予定であり、財務面での安定化も図られ非常に展望の明るさが感じられた。

- 工場内のサイクルシステムについては他社との特記すべき差別はないが、職員（従業員）の大半が知的障害者であり、人事管理面での苦勞が感じられた。しかし、雇用待遇面では特記すべきことがあり、給与支給水準額の高さ、社会保険関連の充実、障害の程度になるべく合わせた業務配置には感銘を受けた。このことは、退職希望者が少ないことや親に対する仕送り行為等により推し量れる。色々の諸問題もあったかとは思いますが、障害者に対する今後の全国的なメルクマールに成り得るケースと感じた。



- 行政側とも良い意味での連携を図っており、区の公用地を無償貸与の代わりにそのほかの支援はないが、江東区内の発砲類リサイクル品をほぼ受け入れて、パレット化し販売しており、ここでもWIN WINの良い関係が構築されていると感じた。言葉は悪いが、補助金漬けの事業よりも、体質のしっかりとした経営理念の堅固な事業として成長している理想的な姿を感じた
- まとめとして、企業経営理念は基より、従業員教育の素晴らしさに感銘した。内容は当たり前のことではあるが、「業績が悪化すれば廃業となり、みんなの頑張りが基本であることを説いている」ことである。

障害者であり、健常者の様に比較的気軽に転職は出来ない境遇であるがゆえにみな真剣である。健常者も大いに見習うべきである。

工場見学時にも、元気にあいさつを交わしてくれる方々ばかりで将来性に期待できる施設の視察であり非常に有効であったと同時に当市においても障害者施設の益々の充実に向けた指標となり得る情報知見の向上であった。

調査事項（3）

当市連携事業店舗のコンセプト状況

（東京都豊島区西巢鴨 2-7-9 座・ガモール）

豊島区 人口： 286,644人 面積： 31.01 km²

（視察事項）

- ・注意しているコンセプト表現
- ・顧客様への商品アピールの工夫
- ・他連携の市町村出品物との差別化

■視察日時 平成29年 7月26日(水)
□午前・☑午後 14時10分 ~ 17時05分

■所 感

- ・立地条件としては、巢鴨とげぬき地蔵通りの大塚よりにあり、土日においてはかなりの人出であろうが、平日においては閑散としている。
- ・特記すべき新庄産商品はあまりなく、目立つような陳列方法も感じられなかったが、売り子の方々はある程度の商品知識を持って対応をしてくれてはいたしかし、特定商品についての詳細な説明には至らない様子であった。
- ・他市町村商品との差別化としての工夫は、縦割りの陳列棚にて上部に地区名を掲示している程度であった。まだまだ工夫の余地ありであろう。
- ・まとめとして、東京都在住の方で自分の郷土発見とのサプライズはあるものの、縁もゆかりもない一般人が立ち寄り購入意欲が持てるかは疑問であると感じた。もっと斬新なコンセプトをもって考え直さないといけないといけない。ここにも特化した能力を持った人材による立て直しが必要と考える。



調査事項(4)

小中学校における国際理解推進業務関連

(千葉県松戸市根本387番地の5 松戸市役所 教育委員会)

3. 視察参加議員

松戸市 人口: 492,199人 面積: 61.38km²

(視察事項)

- ・教育課程特例校の特色
- ・言語活用科のカリキュラム内容
- ・松戸市独自のICT教材の特徴と差別化される教育効果
- ・可能であれば、教育課程特例校の授業風景視察
- ・新庄市のインバウンドへの児童生徒参加(交流会等)を念頭とした松戸市の事例の有無(外国人と児童生徒の交流)

■視察日時 平成29年 7月27日(木)
☑午前・□午後 9時50分 ~ 11時45分

■所 感

- ・小中一貫教育の言語の特化した教育課程の取組みであり、特記すべきは言語活用特例校認可による言語活用科設置である。この事業により小学校児童教育の段階

からグローバルスタンダードモード（結論と理由をしっかりと結び付け、より理論的な表現方法で相互の理解を促進する能力）が習得でき、これをベースとして中学からの言語教科の能力向上を図っている斬新さを感じた。

- ・独自のICT教材（ハートでイングリッシュ・・・教材名）は前期児童においても理解しやすく、非常に効果があがっている。実績結果から当初3000万円強の開発予算にて執行してきたが、最大限有効なる財源の費用対効果事業事例であると感じた。また、当市と比較しても英語教員やALTの配置も有効な活用方法が取られており、当該事業への松戸市の取組み本気度が伺えた。
- ・夏季休暇中ということで残念ながら授業状況は確認できなかったが、生き生きと取り組んでいる児童の姿が目につくようであり、今後機会があれば是非とも実現したいと考えている。また、特記すべき取組みとして児童の言語活用実践の場として、浅草や鎌倉などの近隣観光地での外国人との会話交流体験、生徒においては海外への修学旅行企画による生きた（ネイティブ）言語体験をおこなっている。多言語と触れ合う非常に良き機会であると思う。
語学習得で欠かせないインプットからアウトプットへの移行方法として、当市の新庄まつりや各種イベント等での海外観光客との児童生徒の交流構想などに生かせるのではと考えた。
- ・まとめとして、当市においても今後のグローバルな人材育成を喫緊の課題として位置付け、特化した教育システムを構築し、他市町村と差別化を図り、魅力ある教育環境を売りした「新庄市の子育て充実と定住化」を前面に打ち立てた市政につなげる事の重要性を改めて強く感じた有効な視察であったと考える。

以上、行政視察報告とする。

